

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800421	事業の開始年月日	平成15年1月1日	
		指定年月日	平成21年1月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	グループホーム 都筑の春			
所在地	( 2 2 4 - 0 0 0 1 ) 横浜市都筑区中川 4 - 2 0 - 1 1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月25日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

横浜市内にありながら、緑に囲まれた田園風景の中に位置し、四季の変化を身近に感じられる環境にあります。ホームのすぐ側を流れる早瀬川には鯉が泳ぎ小鷺や鴨や時にはカワセミの姿を見ることができます。このような環境から利用者さんも自然に戸外へ出られホームの庭内はもちろんの事、田んぼの農道を自由に散歩されています。門扉や玄関の施錠は行なっておらず、混乱から戸外へ執着される方への対応も職員の言葉掛けや連携により同行しての対応を行う事で、ご本人が納得してホームでの生活を受け入れて行かれるように支援しております。又、アニマルセラピーを導入しており、パートナー犬の「ハル」の存在が利用者さんの癒しに効果を発揮しており、側に寄り添う姿が日常に溶け込んでいます。医療面でも看護師が職員として勤務しており、利用者さんの健康管理や緊急時の対応等に応じております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年2月5日	評価機関 評価決定日	平成22年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴  
 ①経営母体は有名な秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、事務所の目立つところに掲示するとともに、パンフレット、名刺、常時携帯の「羅針盤」に記載し周知している。秀峰会の理念は「人間が主体である」「連帯の輪を無限に広げていく」であり、地域の方々との交流とご利用者との関わりの強化に努めている。ホームは横浜市営地下鉄中川駅から徒歩10分、横浜市北部の丘陵地帯に開けた新興住宅地の南端で、近くに川が流れ、果樹園や畑の広がる閑静な地域にある。生活環境が閑静でなかなか割には駅から近く、交通の便が良いためご家族も訪問しやすく、事実訪問は2～3の月1回訪問の家族を除き週1回ペースでの訪問がある。建物は平屋建の2ユニットで東・西の家と呼ばれている。長い建物の南側は広く長い庭となっていて、その舗装部分は救急車を奥まで入れられる幅がある。建物の裏・表は畑で季節や折にふれて野菜を頂いている。開所して5年余、近隣の人たちとの友好関係の賜物と喜んでいる。  
 ②地域との関係では自治会に加入し、運営推進会議の関係で町内会長から自治会行事のご案内を頂き、参加している。ホーム主催のX'mas会には町内会の方が纏って参加してくれている。獅子舞等の季節行事の依頼も行っている。  
 ③ご本人の希望やご家族の意向を尊重した上で、ホーム内での課題を月1回の職員カンファレンスで検討し、必要関係者との意見交換した内容や要望を介護計画に反映させている。原則として3ヶ月ごとの介護計画の見直し、介護保険の更新時に見直しを行っている。又、ご本人の心身の状態の変化に応じて見直しを行うよう努めている。個々のご利用者とのコミュニケーションを通じて、希望や意向を把握し必要に応じてご家族に伝え、医療とご家族との検討の場を設けている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム都筑の春
ユニット名	西の家

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していくを日々のケアで実践している	法人の理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していくを日々のケアで実践している。理念等を記した「羅針盤」を常時携帯し、理念の実現に向けて取り組んでいる。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の理念を踏まえ、自治会にも加入し、地域住民の方との相互交流を推進している 事業所イベントへの案内や地域の敬老会等の行事へも利用者参加を行なっている	法人の理念を踏まえ、自治会にも加入し、地域住民の方との相互交流を推進している。運営推進会議の関係で町内会長さんから自治会行事のご案内を頂き、参加している。ホーム主催のX'mas会には町内会の方が纏って参加してくれている。獅子舞等の季節行事の依頼も行っている。地域の敬老会、防災訓練等の行事へもご利用者参加を行なっている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は介護教室の開催は無かったが、施設見学者や職場体験の近隣中学生に対して認知症の方へのアプローチの方法等を伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において話し合われた事柄を職員間で共有し、日々のケアに活かせるようにしている	会議において話し合われた事柄を職員間で共有し、日々のケアに活かせるようにしている。都筑区では運営推進会議のブロック会議を開催し、区内のグループホームの横の連絡と行政の情報提供など行っている。当ホームの運営状況の理解を深めていただけるように、介護に関わるタイムリーな話題を提供して自由に意見交換を行っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター職員に運営推進会議へ参加していただき現状の報告を行い意見を聞いている	地域包括センター職員に運営推進会議へ参加していただき現状の報告を行い意見を聞いている。都筑区にはSOSネットワークがあるので、ご利用者の必要に応じて検討して行く予定である。都筑区認知症フォーラムが開催され参加した。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯を除き、基本的に施錠は行なっておりません。会議で身体拘束の定義や事例を話し合い、日々の業務に照らし合わせて認識を深めるようにしています。	夜間帯を除き、基本的に施錠は行なっていない。会議で身体拘束の定義や事例を話し合い、日々の業務に照らし合わせて認識を深めるようにしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を認識し、事例検討する事で、職員自身のケアと照らし合わせる事で認識し、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を対象とした研修で権利擁護について学び職員への周知を行なっている。成年後見制度の利用を検討されているご家族への資料の提供と相談に応じて居る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居利用の希望をされた時点で契約の必要性や解約に該当する事例等の説明を行なっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会での代表者の方の意見や、面会時に意見を伺い反映させている	運営推進委員会での代表者の方の意見や、面会時に意見を伺い反映させている。日頃のご家族への対応については、職員に共通に情報を流し、認識を統一し、個別に対応の違いが無いように努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体カンファレンスを行い意見や提案を聞く機会を設けており、参加者の多数意見を運営に反映させている	定期的に全体カンファレンスを行い意見や提案を聞く機会を設けており、参加者の多数意見を運営に反映させている。個人面談も必要に応じて行っている。正規職員は年2回行い人事考課、処遇改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の全職員の「現状と未来」・正職員「人事考課」提出にて個々の現状や将来への計画等を直接面談にて聞き取り、昇給・昇格へ反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアができているか把握した上で、必要な研修の案内を行い、参加できるように勤務調整を行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	不定期ではあるが、法人内のGH職員との交流をもつ機会があり情報の交換を行なっている。又、事業部研修を行い相互のサービス向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の施設見学時に要望を聞き、受け答えの表情も含めて安心していただけるように接し良好な関係が築けるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の折に状況を聞く機会を設け、ご家族の不安が最小限になるように努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定ではない事を踏まえ、将来の変化を予測する事も必要だが、現段階で何が必要で、何ができるかを考慮した支援に努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意志を確認した上で日常生活の中での家事的な場面に参加し職員と共に活動していただくようにしている			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員と双方が協力することでご本人が安心して生活していかれる事を説明しご協力いただいている。中には数名ご家族とご本人の関係が難しい方もある			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時のご友人や近隣の方、利用医療機関等の関係を継続できるように支援しています。	在宅時のご友人や近隣の方、利用医療機関等の関係を継続できるように支援している。電話の使用も自由に行ってもらっている。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで同席時に職員が介入する事で、コミュニケーションがスムーズに図れる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や施設宛に届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡等も行なっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の方との会話を通してご本人の意向を把握し、状況の確認を行ないご本人にとっての最善策を検討している。	個々のご利用者とのコミュニケーションを通じて状況の確認を行ない、希望や意向を把握し、最善策を検討し、必要に応じてご家族に伝え、医療とご家族との検討の場を設けている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用等の状況をご本人やご家族から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の職員の申し送りにて個々の最新の心身の状態を把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な職員カンファレンス等で入居者個々の情報交換をする事で最新の現状を把握し、必要に応じてご家族や医療へ相談し介護計画に反映できるように努めている。	定期的な職員カンファレンス等で入居者個々の情報交換をする事で最新の現状を把握し、必要に応じてご家族や医療へ相談し介護計画に反映できるように努めている。介護計画等のフォーマットについては樹林の風以来の積み重ねによる秀峰会グループホーム独自のものを活用している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族を取り巻く状況の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼する事で、ホームにて多彩な活動（ちぎり絵・書道・太極拳・男性カルテット）を行い入居者さんの生活が豊かになるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関による訪問診療を利用する方と在宅時からのかかりつけの医療機関を継続利用する方もおられ、必要時に適切な医療を受けられるように支援しています。	事業所の協力医療機関による訪問診療を利用する方と在宅時からのかかりつけの医療機関を継続利用する方もおられ、必要時に適切な医療を受けられるように支援している。	今後の継続



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が日を分けて、介護職員としても在籍しており、一般介護職員から利用者の心身の変調等の報告や相談に応じ、医療機関受診時の対応等も行い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の必要情報を関係機関に対して速やかに伝えるようにしています。又、個々の希望される受け入れ機関の医療情報を整理している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関わる指針を示し説明、同意書に事業所の対応等の確認事項を記載し同意を得ている。チームについては関係医療機関と連携している。	重度化や終末期に関わる指針を示し説明、同意書に事業所の対応等の確認事項を記載し同意を得ている。関係医療機関（つくし野駅前クリニック）と連携している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し各職員へ配布と共に、横浜市救命講習の受講を推奨し実践力を養っている。訓練は随時で職員研修に織り込んでいますが、定期的には行なっていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的訓練を行なっています。又、自治会の防災訓練に参加し情報交換と相互の協力体制を確認している。	年2回の定期的訓練を行なっている。又、自治会の防災訓練に参加し情報交換と相互の協力体制を確認している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場であっても、「団体行動」ではない事を念頭におき、個人を尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した支援を行なっている	共同生活の場であっても、「団体行動」ではない事を念頭におき、個人を尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した支援を行なっている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が随時に職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員側も話を傾聴し利用者本人が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体での活動への参加も個人の自己決定を尊重し、無理強いする事のないように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の個性を尊重し、衣類の自己決定が難しい方への支援にも「その方らしさ」が反映できるように思案している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容はもとより、BGMや座席や職員の配置等の環境づくりにも配慮している。準備や片付け等への参加は働き掛けはするが、絶対参加では行っていない	ご利用者の希望を聞き、ご利用者と一緒に買い物に行き、独自のメニューで食事を提供している。食事の内容はもとより、BGMや座席や職員の配置等の環境づくりにも配慮している。準備や片付け等への参加は働き掛けはするが、絶対参加では行っていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3回の食事・10時・15時の水分補給と個々の方の食事摂取量に応じて間食等で補える様に支援し、居室内で嗜好品を楽しめる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを認識し、身体や状況に応じた排泄の支援を行なっている	個々の排泄パターンを認識し、身体や状況に応じた排泄の支援を行なっている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘の理解を行い、個々の排便のチェック表を活用し、改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の間隔が3・4日空かないように言葉かけは行なうが、対象となる方の意思を随時尊重し、職員側の都合に利用者が合わせる事のないように配慮している	入浴の間隔が3・4日空かないように言葉かけは行なうが、対象となる方の意思を随時尊重し、職員側の都合に利用者が合わせる事のないように配慮している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事、昼寝の習慣や時々個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の処方薬の情報を職員が共有し理解に努めている。又、服薬の管理と症状の変化も様子観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々の方が「楽しい」と感じられる事を提供できるように心がけて支援を行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の門扉や玄関は自由に出入りができる状態になっている。特別な場所への外出（教会等）希望はご家族に依頼してご協力頂き支援している。	日中の門扉や玄関は自由に出入りができる状態になっているので広い庭を有効に活用している。特別な場所への外出（教会等）希望はご家族に依頼してご協力頂き支援している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の判断能力のレベルによりホーム預かりや個人の現金所有として支援している。又、随時の買い物依頼への支払いもご家族の了解を得た上で柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行い、手紙の投函等の支援を行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に集う方が不快感を持たず、又、混乱を起こす事がないように配慮し、季節を感じられるように時節の飾りや掲示を行なっている。	共用空間に集う方が不快感を持たず、又、混乱を起こす事がないように配慮し、季節を感じられるように時節の飾りや掲示を行なっている。秀峰会はインテリアについては独自のセンスを持ち感じの良い雰囲気を作り上げている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫する事で、個々の方が自由に共有空間で過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室内で安心して過ごせるように家具や愛玩物を配置してご本人が居心地よく過ごせるように工夫している	個々の居室内で安心して過ごせるように家具や愛玩物を配置してご本人が居心地よく過ごせるように工夫している	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの経路や表示を行なうことで認識できる方の自立を促し、見守りを（行なう事で安全を確保できるように工夫している。		

事業所名	グループホーム都筑の春
ユニット名	東の家

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく を日々のケアで実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の理念を踏まえ、自治会にも加入し、地域住民の方との相互交流を推進している 事業所イベントへの案内や地域の敬老会等の行事へも利用者参加を行なっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は介護教室の開催は無かったが、施設見学者や職場体験の近隣中学生に対して認知症の方へのアプローチの方法等を伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において話し合われた事柄を職員間で共有し、日々のケアに活かせるようにしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター職員に運営推進会議へ参加していただき現状の報告を行い意見を聞いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯を除き、基本的に施錠は行なっておりません。 会議で身体拘束の定義や事例を話し合い、日々の業務に照らし合わせて認識を深めるようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を認識し、事例検討する事で、職員自身のケアと照らし合わせる事で認識し、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を対象とした研修で権利擁護について学び職員への周知を行なっている。成年後見制度の利用を検討されているご家族への資料の提供と相談に応じて居る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居利用の希望をされた時点で契約の必要性や解約に該当する事例等の説明を行なっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会での代表者の方の意見や、面会時に意見を伺い反映させている		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体カンファレンスを行い意見や提案を聞く機会を設けており、参加者の多数意見を運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の全職員の「現状と未来」・正職員「人事考課」提出にて個々の現状や将来への計画等を直接面談にて聞き取り、昇給・昇格へ反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアができているか把握した上で、必要な研修の案内を行い、参加できるように勤務調整を行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	不定期ではあるが、法人内のGH職員との交流をもつ機会があり情報の交換を行なっている。又、事業部研修を行い相互のサービス向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の施設見学時に要望を聞き、受け答えの表情も含めて安心していただけるように接し良好な関係が築けるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の折に状況を聞く機会を設け、ご家族の不安が最小限になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定ではない事を踏まえ、将来の変化を予測する事も必要だが、現段階で何が必要で、何ができるかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意志を確認した上で日常生活の中での家事的な場面に参加し職員と共に活動していただくようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員と双方が協力することでご本人が安心して生活していかれる事を説明しご協力いただいている。中には数名ご家族とご本人の関係が難しい方もある		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時のご友人や近隣の方、利用医療機関等の関係を継続できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで同席時に職員が介入する事で、コミュニケーションがスムーズに図れる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や施設宛に届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡等も行なっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の方との会話を通してご本人の意向を把握し、状況の確認を行ないご本人にとっての最善策を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦・サービス利用等の状況をご本人やご家族から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の職員の申し送りにて個々の最新の心身の状態を把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な職員カンファレンス等で入居者個々の情報交換をする事で最新の現状を把握し、必要に応じてご家族や医療へ相談し介護計画に反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族を取り巻く状況の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼する事で、ホームにて多彩な活動（ちぎり絵・書道・太極拳・男性カルテット）を行いご入居者の生活が豊かになるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が日を分けて、介護職員としても在籍しており、一般介護職員から利用者の心身の変調等の報告や相談に応じ、医療機関受診時の対応等も行い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の必要情報を関係機関に対して速やかに伝えるようにしています。又、個々の希望される受け入れ機関の医療情報を整理している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関わる指針を示し説明、同意書に事業所の対応等の確認事項を記載し同意を得ている。 チームについては関係医療機関と連携している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し各職員へ配布と共に、横浜市救命講習の受講を推奨し実践力を養っている。訓練は随時で職員研修に織り込んでいますが、定期的には行なっていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的訓練を行なっています。又、自治会の防災訓練に参加し情報交換と相互の協力体制を確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場であっても、「団体行動」ではない事を念頭におき、個人を尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した支援を行なっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が随時に職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員側も話を傾聴し利用者本人が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体での活動への参加も個人の自己決定を尊重し、無理強いする事のないように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の個性を尊重し、衣類の自己決定が難しい方への支援にも「その方らしさ」が反映できるように思案している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容はもとより、BGMや座席や職員の配置等の環境づくりにも配慮している。準備や片付け等への参加は働き掛けはするが、絶対参加では行っていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3回の食事・10時・15時の水分補給と個々の方の食事摂取量に応じて間食等で補える様に支援し、居室内で嗜好品を楽しめる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを認識し、身体や状況に応じた排泄の支援を行なっている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘の理解を行い、個々の排便のチェック表を活用し、改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の間隔が3・4日空かないように言葉かけは行なうが、対象となる方の意思を随時尊重し、職員側の都合に利用者が合わせる事のないように配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事、昼寝の習慣や時々個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の処方薬の情報を職員が共有し理解に努めている。又、服薬の管理と症状の変化も様子観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々の方が「楽しい」と感じられる事を提供できるように心がけて支援を行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の門扉や玄関は自由に出入りができる状態になっている。特別な場所への外出（教会等）希望はご家族に依頼してご協力頂き支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の判断能力のレベルによりホーム預かりや個人の現金所有として支援している。又、随時の買い物依頼への支払いもご家族の了解を得た上で柔軟に対応している		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行い、手紙の投函等の支援を行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に集う方が不快感を持たず、又、混乱を起こす事がないように配慮し、季節を感じられるように時節の飾りや掲示を行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫する事で、個々の方が自由に共有空間で過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室内で安心して過ごせるように家具や愛玩物を配置してご本人が居心地よく過ごせるように工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの経路や表示を行なうことで認識できる方の自立を促し、見守りを（行なう事で安全を確保できるように工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム  
都筑の春

作成日

平成22年1月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域包括支援センターと連携が運営推進会議の席上でのみになっている	地域包括支援センターとの密な連携	利用者の報告・相談を行ない連携を図っていく	3ヶ月
2	13	職員数は安定してきているが、新人職員が増えた事でスキルにバラつきがある	ケアに対する方向性の統一	定期的な研修の設定と職員個々の現状の把握を行なう	6ヶ月
3	34	緊急対応についての実践的な訓練が定期的に行なえていない	定期的な訓練の機会を設定する	年間の研修計画を設定する	2010/4/22

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。